

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

10月15日(金曜日)
 旧 9月10日<赤口>

あすの暦

通日 288
 月齢 8.7
 (正午)



東京標準
 満潮 14.43
 干潮 6.52
 20.15
 (小潮)

松本清張(1909~92年)にとつての武蔵野は、小倉に次ぐ第二の故郷と言えます。清張の武蔵野は、公式の行政区分ではなく、中央線と西武線と京王線とそれらの沿線を南北に繋ぐバスの路線と、新宿から東西に結ぶ青梅街道から浮かび上がる一帯です。清張が喜らした縁ある場所を繋ぎ合わせると中心をなすエリアでもあり、清張が想う武蔵野をみずから探して居を定め

中央と郊外関係捉える

文人の武蔵野

松本清張 ⑧



杉並区高井戸の自宅取材に於ける松本清張(1990年1月10日撮影)

たと考えることもできません。「読売新聞」(1964年4月25日夕刊)に寄稿した「ヨーロッパ飛びある記 ハীগ付近に武蔵野の面影」を読むと、清張は初めての海外旅行でオランダを訪れ、「武蔵野の面影を見いだしています。自身の中に確固たる武蔵野像があるのがわかります。清張は、東京都を東西に分

けて把握し、西の郊外に武蔵野があると考えていました。東の東京を中央とみなして西の武蔵野を峻別していた点、武蔵野町(武蔵野市)に囚われずに武蔵野像をイメージしていた点、芥川龍之介や国木田独歩に影響を受けていた点では、生年を同じくする太宰治に類似しています。また国木田独歩「武蔵野」には、当時の近代水道の創設をめぐる農商務省の不祥事「鉄管事件」に「東京」を象徴させて武蔵野を峻別する箇所があります。清張もまた公金による接待などが渦巻く地点として東京をみていました。太宰とは異なり、成熟した大人になってから上京して経済的にも成功をおさめた清張の眼には、功罪を含めて地方の地方性がよく見えています。

た。東京の都会性と地方性の二重構造にもいち早く気づき、武蔵野を発見できました。中央と周縁の相補的な関係が織りなす権力の光と闇に迫れた所以です。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「新潮日本文学アルバム 松本清張」

松本清張という人物を知るには、全著作物を読むところから始める必要がありますが、全集未収録の作品も多く、読破した人は少ないのではないのでしょうか。そんなときにお薦めなのが本書です。若い頃に描いた絵、「和」と書いた色紙、原稿用紙とその束、逝去直後の机上の写真などが豊富に掲載されています。

松本清張



(新潮社)